

2026年度
(後期)

就実公開講座

学科全体
テーマ

「声の表現史」

表現文化学科

9月26日(土)

講師 坂 堅太

「外地」日本語文学に響く「声」

かつて「外地」と呼ばれた土地を舞台とする小説では、日本語以外の「声」が書き記されています。では、小説家たちはそうした「声」をどのように表現したのでしょうか。テキストの背後にある植民地主義の問題を踏まえながら、一緒に考えてみたいと思います。

10月3日(土)

講師 鯨井 綾希

放送の「声」から辿る言葉の変化

NHKが放送100周年を超え、放送を通して全国に届けられてきた「声」にも長い歴史が刻まれています。その100年以上の歴史の中で、放送の「声」にはどのような言葉の変化が見られたのでしょうか。当時の音声を聞きながらその一端を辿っていきます。

10月10日(土)

講師 竹内 洪介

講談本の世界-江戸時代に生きる秀吉-

大河ドラマ「豊臣兄弟!」が放送中です。秀吉の出世伝説は、いつの時代も人気です。豊臣政権を滅ぼして成立した徳川政権下でも、それは変わりません。秀吉は徳川時代にどのように描かれ、語られたのでしょうか。講談本を切り口に、江戸時代における秀吉の「生きざま」を覗いてみましょう。

10月31日(土)

講師 加藤 美奈子

『明星』歌人の「声」の表現

山川登美子による短歌「歌かくと蓮の葉をれば藕糸(いと)のなかに小(ちさ)きこゑする何のささやき」に、「声」が印象的に描かれています。近代詩歌、特に短歌において「声」はどのように表現されているのでしょうか。与謝野晶子をはじめとする『明星』の歌人の作品を中心に紹介し、鑑賞します。

11月7日(土)

講師 小林 敦子

「言葉」から自由になる詩の声 -オノマトペと自然

1920年代から1930年代の日本の文学は、きわめて多様な文体の挑戦がなされた時期でした。草野心平や宮沢賢治らは、自然という存在から声を聞き、新しい言葉をひらいていきます。不思議な、しかし力強い豊かな声の文学化を体感しましょう。

ご記入いただきました個人情報は、本講座の受講管理のほか、次回の講座案内にのみ使用させていただきます。

前期講座申込書

5月7日(木)から受付開始

※締切は各講座開催日の2日前まで

ふりがな			
氏名	生年月日	年 月 日(歳)	
住所	〒		
TEL() -			
メールアドレス(必須)			

受講希望日に○を付けてください。

前期講座 5/30、6/6、6/13、6/27、7/4、7/11

後期講座申込書

8月26日(水)から受付開始

※締切は各講座開催日の2日前まで

ふりがな			
氏名	生年月日	年 月 日(歳)	
住所	〒		
TEL() -			
メールアドレス(必須)			

受講希望日に○を付けてください。

後期講座 9/26、10/3、10/10、10/31、11/7